

英語・中国語からみた日本語の無界性：複合動詞と空間認知

望月圭子（東京外国語大学）・申亜敏（早稲田大学）

キーワード：複合動詞、空間表現の語彙、英語・中国語対照、非個体化性、無界性、学習者誤用コーパス

1. はじめに

本論では、複合動詞・空間表現の語彙に焦点をあて、英語・中国語との対照を通し、統語構造と複合動詞形成の相関性、事象構造、語彙的アスペクト、認知意味論、第二言語習得の視点から、日本語の語彙の特性を論じる。

2節では、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞を、同様に「動詞+動詞/形容詞」型複合動詞の体系が非常に豊富な中国語と比較する。日本語と中国語の複合動詞においては、「統語構造が複合動詞の語構造に反映される」という普遍性がみられる。その一方、句構造の主要部が右にある日本語では「目的語節+動詞」補文型複合動詞が卓越しているのに対し、動詞句の主要部が右にある中国語では、「動詞+結果述語」構造があり、結果複合動詞が卓越しているという相違があるう。

さらに、3節では、アスペクトを表す複合動詞(e.g. 始動相：～かける/かかる、～だす、～始める/始まる、継続：～続ける/続く、完了：～終わる/終わる、～上げる/上がる、～尽くす、～きる、～通す、～抜く)については、中国語においても、アスペクトを表す複合動詞が存在するものの、日本語と異なり、完結相を表す場合に限って複合動詞化可能という特徴がある。このため、中国語を母語にする日本語学習者にとっては、始動相の「～かける/かかる」、「～だす」の習得がむずかしい。日本語の複合動詞が「非完結性」をも表しうるという現象は、統語的に主要部が右にあり、「目的語節+動詞」補文型複合動詞が卓越しているという形態統語論的な要因に加え、日本語の「無界性」(unboundedness)という特性、即ち影山(2002)のいう「ケジメのない日本語」という特性とも関連している。

4節では、空間表現について、英語・中国語の対照から日本語の空間表現を考察する。日本語母語話者による英語作文コーパス¹にみられる誤用をみると、前置詞 “in” の過剰使用が卓越しているが、これはON(平面上)やAT(点)という認知に基づく表現が、日本語の語彙には、英語・中国語に比べて少ないことに起因すると推測される。

英語では、前置詞 “in/ on/ at” が、明確な空間認知の相違に基づいて用いられる。一方、日本語の場所表現は、述語の義務項か随意項かといった項構造との関係で選択される格助詞「に」「で」が用いられ、IN(内部構造)、ON(平面上)、AT(点、ひとまとまり性)といった空間認知の区別によるものではない。

日本語においては、「～内(うち、～ナイ)」「～中(なか、～チュウ)」「奥」といった、境界や個体の輪郭が曖昧な空間認識表現が卓越しているのである。また、複合動詞「～こむ」も、「技を磨きこむ」「強い精神を鍛えこむ」「オリンピックを前に泳ぎこむ」等の例は、英語や中国語では、「一生懸命」「必死に」「何度も何度も」というような翻訳になるが、「抽象的なもの」(精神性に関わるもの)の「抽象的空間」(日本語における心理的な‘ウチ’の領域)への移動を表す用法ともとれる。こうした心理的な‘ウチ’の領域には、IN(内部構造)、ON(平面上)、AT(点、ひとまとまり性)といった明確な空間認知の区別はなく、その内部構造は、「無界的」である。こうした日本語の特性が、英語の習得においても “on/ at” を使うべきところ、最も広い空間認知的意味をもつ “in” を過剰使用してしまう要因ではないかと推測される。

日本語の「無界的認知」は、日本語母語話者による中国語学習者コーパスで観察される顕著な誤用類型にもみられる。例えば、中国語において、<一+類別詞>は名詞の前につき、名詞を個体化する機能をもつが、日本語母語話者の場合、<一+類別詞>をつけるべきところに、英語母語話者に比べ、顕著に「欠如」がみられる。英語母語話者の場合、英語に冠詞 a/the や、「限定詞」(determiner) と呼ばれる統語範疇が存在することが要因と推測される「過剰使用」が顕著である。こうした日本語対英語母語話者による中国語学習者コーパスにみられる誤用類型の対照から

も、日本語の「非個体化」性、「無界性」が浮き彫りになる。

複合動詞、空間認知、個体化といったキーワードから日本語を英語・中国語と対照してみると、そこにはいずれも、日本語の語彙における時空間における「無界性」が浮かびあがってくる。

2. 中国語からみた日本語の複合動詞

日本語の複合動詞の研究として、日本語学・日本語教育の分野においては、吉沢(1952)、寺村(1984)、山本(1984)、姫野(1999)、斎藤(2004)、石井(2007)等が代表的な論考として挙げられ、多くの詳細な論考がある。

また、一般言語理論の枠組みにおける日本語の複合動詞研究として、影山(1993)、Matusmoto(1996)、松本(1998)、由本(2005)、影山(2013)が代表的なものとして挙げられる。こうした一般言語理論を用いた研究の焦点は、「動詞+動詞」型複合動詞が、語彙部門または統語部門のどちらで形成されるのか、どのような項構造をもつ動詞の組み合わせからなるのか、どのような「語彙概念構造」(Lexical Conceptual Structure)から形成されるのか、前項動詞と後項動詞からどのように項構造を受け継ぐのか、複合動詞形成がどのような統語構造の反映なのか、という点であった。

本章では、日本語の特質を中国語の複合動詞との対照から分析する便宜上、一般言語理論の枠組みにおける先行研究を紹介し、同じ理論的枠組みで中国語の複合動詞との対照を試みる。

2.1 日本語の統語的複合動詞と語彙的複合動詞

影山(1993:74-97)では、日本語の複合動詞は、その統語的振る舞いの相違により、統語的複合動詞と語彙的複合動詞との二種類あり、(1)のように区別されるとしている。

(1) 日本語における二種類の複合動詞

a. 統語的複合動詞

払い終える、話し終える、しゃべり続ける、食べすぎる、食べそこなう、助け合う、動き出す、食べかける、しゃべりまくる、走りぬく、数え直す、見なれる、登りきる、やりつける

b. 語彙的複合動詞

飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、売り払う、受け継ぐ、解き放つ、飛び込む、(隣の人に)話しかける、こびり付く、飲み歩く、歩き回る、踏み荒らす、誉め讃える、語り明かす、聞き返す、震え上がる、呆れ返る、持ち去る

さらに、日本語の複合動詞の形態統語論上の制約として、影山(1993:117)は、語彙的複合動詞は、項構造レベルで複合が起こるため、前項動詞 V1 と後項動詞 V2 の複合制約があり、この制約を「他動性調和の法則」(Transitivity Harmony Principle)として提示している。

(2) 「他動性調和の法則」(Transitivity Harmony Principle)

日本語の語彙的複合動詞は、原則として、外項をもつか否かの基準により、外項をもつ動詞(他動詞・非能格動詞)か、外項を持たない動詞(非対格動詞)の間での複合しかおこらない。

「語彙的複合動詞」とは、一言で言えば、V1 と V2 の間に如何なる統語的操作(挿入・置換・複合動詞の一部分のみとの照応関係・重複という操作等)も適用されない、語彙部門で形成される複合動詞である。「他動性調和の法則」の原則に従えば、日本語の語彙的複合動詞は、以下の(3)のような動詞の組み合わせからなる。

(3) 外項をもつ「他動詞 / 非能格動詞」の間の組み合わせ

a. 他動詞 + 他動詞

洗い落とす、ぬぐい落とす、切り落とす、切り倒す、叩き落とす、吹き消す、思い起こす、突き崩す、押し潰す、射止める、追い散らす

b. 他動詞 + 非能格動詞

探し回る、買いまわる、嘆き暮らす、待ち暮らす、待ち構える

c. 非能格動詞 + 他動詞

泣き落とす、競り落とす

d. 非能格動詞 + 非能格動詞

言い寄る、這い寄る、駆け寄る、飛び降りる、駆け下りる

中国語の複合動詞の典型は、日本語では非文法的となる「他動詞 + 非対格動詞」の組み合わせである。こうした日本語と中国語の相違点は、日本語の複合動詞の複合には、形態統語論上の制限が強く働いているのに対し、中国語の複合動詞の複合においては、「他動性調和の法則」のような形態統語論的な制限が働かないことを示唆する。つまり、日本語では、自動詞・他動詞の形態的区別及び主格・対格の形態的標識があるため、動詞の組み合わせにヴォイスに関わる形態統語論上の制限が強く働く。一方、孤立語的な中国語では、自動詞・他動詞の形態的区別も、主格・対格の形態的標識もなく、動詞の組み合わせがヴォイス上の制限を受けず、意味構造をそのまま反映した複合動詞が形成されるのである。

日本語の複合動詞の形成には、他動性調和の原則に加えて、由本(1996)、松本(1998)が提示する「主語一致の原則」も関与する。松本(1998:72)によれば、主語一致の原則は、以下のように定義される。

(4)「主語（卓立項）一致の原則」

二つの動詞の複合においては、二つの動詞の意味構造の中で最も卓立性の高い参与者（通例、主語として実現する意味的項）どうしが同一物を指さなければならない。

中国語の複合動詞形成と対照すると、「他動性調和の法則」も「主語一致の原則」も、主格・対格及び自動詞・他動詞が形態的に区別される日本語の原則であり、孤立語である中国語では、主格・対格も、自動詞・他動詞もいずれも形態的には区別されないので、こうした形態統語的制約は働かない。

2.2 日本語の二種類の補文関係の複合動詞：語彙的複合動詞と統語的複合動詞

影山(1993:74-97)の議論を要約すると、語彙的複合動詞と統語的複合動詞との区別は、以下の表1のような意味的・統語的対比に基づく。

表1 日本語の統語的複合動詞と語彙的複合動詞（影山(1993:74-97)を筆者が要約）

	統語的複合動詞	語彙的複合動詞
	～終える、～続ける、～すぎる、～出す、 ～直す、～なれる、～きる	飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、受け継ぐ、 解き放つ、飛び込む
I . V1V2の 意味関係	・透明かつ合成的 ・V1がV2の目的語節の動詞となるような 補文関係をなす	・意味の不透明化や語彙化 ・種々雑多な意味関係
II . 生産性	・語彙的な結合制限（他動性調和の原則） を受けない。	・語彙的な結合制限（他動性調和の原則等）有。・辞書 への登録必要。
III . 統語的操 作	以下の統語操作が可能 ①代用 ②尊敬語化 ③受身化 ④サ変動詞による置換 ⑤重複	・左の①から⑤の統語的操作のいずれも適用不可能

2.2.1 日本語の補文関係の語彙的複合動詞

影山(1993)では、補文関係の意味関係をもつ複合動詞は、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二種類にまたがると

している。まず、補文関係の語彙的複合動詞として、以下のような例を挙げている。

- (5) a. ～上げる / 上がる (完了):
歌い上げる、洗い上げる、鍛え上げる、磨き上げる
- b. ～払う (完全にその状態にある):
落ち着き払う、酔っ払う、出払う
- c. ～渡る (隅々まで及ぶ):
響き渡る、晴れ渡る、澄み渡る、知れ渡る、鳴り渡る、行き渡る、冴え渡る
- d. ～違う (動作を間違える):
聞き間違う、掛け違う
- e. ～違う (動作が一致しない):
入れ違う、行き違う、すれ違う
- f. ～逃がす (不成功):
見逃す、取り逃がす
- g. ～止す (中途放棄):
言い止す、食い止す、読み止す
- h. ～果たす (完遂):
使い果たす、討ち果たす
- i. ～漏らす (失敗):
書き漏らす、聞きもらす
- j. ～付く (着手):
寝付く、居付く、住み付く
- k. ～落とす (不成功):
言い落とす、書き落とす、聞き落とす、見落とす、釣り落とす、取り落とす
- l. ～交わす (動作のやりとり):
言い交わす、呼び交わす、見交わす、酌み交わす、取り交わす
- m. ～習わす (習慣):
言い慣わす、書き習わす、呼び習わす
- n. ～返る (完全にその状態になる):
沸き返る、しょげ返る、静まり返る、呆れ返る
- o. ～頻る (事象の継続):
鳴き頻る、降り頻る
- p. ～こなす (習熟):
使いこなす、歌いこなす、着こなす、弾きこなす、読みこなす、乗りこなす

中国語においては、補文構造は複合動詞として具現化するだろうか？ 結論をいうと、後項述語が結果事象として認識されうる場合に限ってのみ、補文構造が中国語の複合動詞にも想定しうる。由本(2005)が挙げている日本語の補文関係の語彙的複合動詞を例にして考えると、(6)に示すように、中国語においても結果複合動詞が対応するケースが多い。

- (6) a. 鳴り渡る: 响遍 xiang-bian b. 知れ渡る: 传遍 chuan-bian
c. 見逃す: 看漏 kan-lou d. 書き落とす: 写漏 xie-lou
e. 見落とす: 看漏 kan-lou f. 使い果たす: 用尽 yong-jin / 用光 yong-guang
g. 呼び慣わす: 叫惯 jiao-guan

(6) の V2 部分は、以下に示すように、中国語においてはかなり生産力の強い結果複合動詞の V2 となる。

- (7) a. ～遍 bian : ～ということがあまねく行き渡る (～渡る)
b. ～漏 lou : ～ということが抜け落ちている (～落とす / 落ちる)
c. ～尽 jin : ～ということをし尽くす (～尽くす / 尽きる)
d. ～光 guang : (あるものを使った) 結果、あるものが消滅する (使い切る)
e. ～慣 guan : (ある行為の結果、その行為に) 慣れる (～慣れる)

しかし、「読みかける」「読みさす」「読み続ける」など、アスペクトに関わる V2 で、事態全体が完結性をもたない場合は、中国語では複合動詞になることはできず、始動相「読むことを始める」、中止相「途中まで読んでやめる」、継続相「読むことを続ける」というような動詞句としてしか表せない。なぜなら、中国語の複合動詞の典型は結果複合動詞であり、V2 が結果事象を表す述語でなければならないという完結性の原則が働くからである。

2.2.2 日本語の補文関係の語彙的複合動詞

次に、統語的複合動詞としての補文関係の複合動詞は、影山 (1993:96) によれば、統語的複合動詞は、すべて補文関係の複合動詞であるとして、以下のような例をあげている。

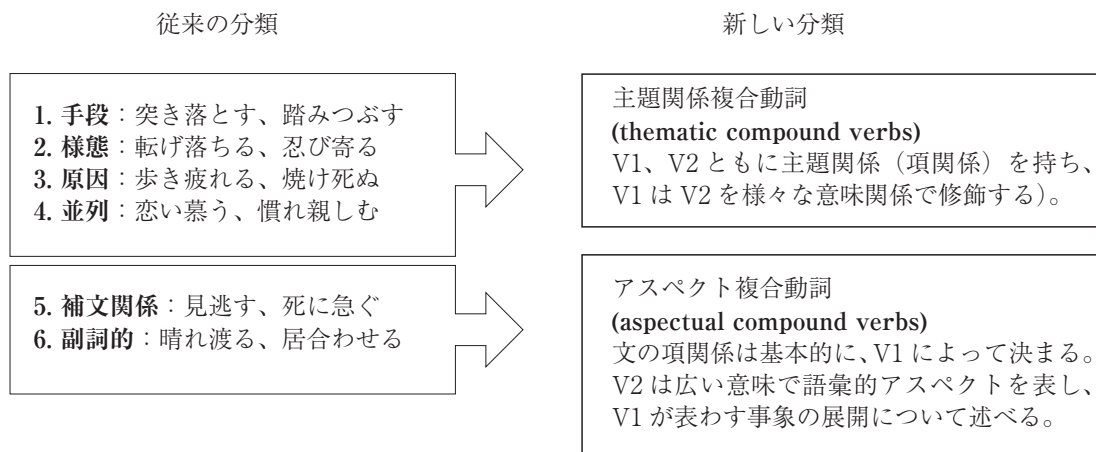
- (8) a. 始動 : ～かける、～だす、～始める
b. 継続 : ～まくる、～続ける
c. 完了 : ～終わる、～終わる、～尽くす、～きる、～通す、～抜く
d. 未遂 : ～そこなう、～損じる、～そびれる、～しかねる、～遅れる、～忘れる、
～残す、～誤る、～あぐねる
e. 過剰行為 : ～過ぎる
f. 再試行 : ～直す
g. 習慣 : ～つける、～慣れる、～飽きる
h. 相互行為 : ～合う
j. 可能 : ～得る

中国語においては、V2 が完結性を表すことが結果複合動詞の条件となるため、(8) の統語的複合動詞のうち、複合動詞として対応できるのは、「完了」の「～終わる / 尽くす / 切る / 通す / 抜く」や、「習慣化」の「～つける / 慣れる / 飽きる」のみである。

2.3 日本語における二種類の語彙的複合動詞

影山 (2013:11) では、語彙的複合動詞の新体系として、語彙的複合動詞を以下のように再分類し、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の中間に位置するものとして、「アスペクト複合動詞」のタイプを提示している。

(9)



アスペクト複合動詞は、上記(5)で挙げた、「～上げる / 上がる（完了）」、「～払う（完全にその状態にある）」、「～渡る（隅々まで及ぶ）」等の補文関係の語彙的複合動詞に相当する。

影山(2013:3-46)では、主にアスペクト複合動詞の性質について論じ、外国語との対照でも、アスペクト複合動詞はかなり稀な存在で、日本語固有の特徴ではないかと述べている。確かに、日本語のアスペクト複合動詞は、「呆れはてる」「待ちわびる」「褒めちぎる」「降りしきる」「決めあぐねる」「買ったたく」等、V2が原義とは異なる多様な語彙的意味をもち、上級日本語学習者でさえ、なかなか習得できないものが多い。しかし、いくつかの普遍的な語彙的アスペクト概念については、(7)に示したように、中国語においても、同様に複合動詞のV2で表される。この現象を以下3節で考察する。

3. 日本語と中国語のアスペクト複合動詞

3.1 中国語の結果複合動詞研究

伝統的な中国語学においては、複合動詞に相当する「動詞＋結果補語」構造の研究は、中国語文法の重要な研究項目であり、また、留学生への中国語教育においても、最も習得が困難な文法項目として研究が進められてきた。

中国語研究において、複合動詞という術語が使われ始めたのは、生成文法の分野で、Li(1990), Huang(1992), 湯(1992a,b), 沈力(1993), Cheng and Huang(1994), Li(1995), Sybesma(1999)等が、中国語学で「動詞＋結果補語」と呼ばれている複雑述語について、項構造、項の受け継ぎ、主要部の位置、語彙概念構造、編入による複合動詞の生成、語彙論と統語論のインターフェースといった観点から分析を始めた1990年代であった。

日本語と中国語との複合動詞の対照研究は、項構造やGB理論の枠組みによる望月(1990a,b), 湯(1992a,b), 日本語の動詞の自他対応と中国語の結果複合動詞の使役交替の対照を行った望月(2004)、項構造、動詞意味論の視点から、日本語の複合動詞との対照を試みながら中国語の複合動詞の体系を論じた申(2007,2009)、英語の結果構文・日本語の結果複合動詞と中国語の結果複合動詞を論じた申・望月(2009)等がある。さらに、中国語を母語とする日本語研究者によるものも多く、日本語教育における複合動詞という視点をもつものも多い。なかでも、張威(1998)は、日本語の自他と中国語の結果複合動詞の実現可能・不可能を表す可能補語との対照研究で、日本語教育・中国語教育にも貢献する研究である。

3.2 中国語の複合動詞の語構造と五分類

日本語との対照の前に、中国語の複合動詞全体像と、結果複合動詞の位置づけを示そう。湯(1989:154-161)は、中国語の複合動詞を、その内部構造から、以下のように五分類している。下線をひいたものは、使役起動交替をおこし、起動自動詞用法と使役他動詞用法の両方を兼ねる能格動詞としての複合動詞である。

- (10)a. 「動詞 + 目的語」型 (Predicate-Object Type):
 种地 zhong-di (土地を耕す)、结婚 jie-hun (結婚する)
 充电 chong-dian (充電する)、动员 dong-yuan(動員する)
- b. 「動詞 + 結果補語」型 (Predicate-Complement Type):
 推开 tui-kai (押し開ける)
 打破 da-po (力を加えて壊す / 力が加わって壊れる)
 摔坏 shuai-huai (速い速度で落として {壊す / 壊れる})
 喊哑 han-ya (叫びすぎて {声をからす / 声がかかる})
 累坏 lei-huai (疲れて {体が壊れる / 体を壊す})
- c. 「副詞 + 動詞」型 (Modifier-Head Type):
 迟到 chi-dao (遅刻する)、热爱 re-ai (熱愛する)
 瓦解 wa-jie (ばらばらに崩す / ばらばらに分裂させる)
 改组 gai-zu (~が改組する / ~を改組する)
- d. 「主語 + 述語」型 (Subject-Predicate Type):
 面熟 mian-shu (顔になじみがある)、头疼 tou-teng (頭が痛い)
 眼熟 yan-shu (よくみかける)、性急 xing-ji (性格がせっかちである)
- e. 並列型 (Coordinative Type):
 发展 fa-zhan (発展する / 発展させる)、改变 gai-bian (変える / 変わる)
 成立 cheng-li (成立する / 成立させる)、丰富 feng-fu (豊富である / 豊富にする)、
 充实 chong-shi (充実する / 充実させる)

この五種類の複合動詞のうち、結果複合動詞は(10b)の「動詞 + 結果補語」型複合動詞であり、その構造は、以下の(11)のように一般化される。

(11) 結果複合動詞の事象構造及び述語の組み合わせ

	+		
前項述語 (V1)		後項述語 (V2)	
a. 事象	原因事象又は先行事象	結果事象	
b. 動詞	他動詞 / 非能格動詞 / 非対格動詞	非対格動詞 / 形容詞 ²	

V1は、全ての種類の述語が担うことが可能である。一方、V2は、結果状態を表すために、非対格動詞または形容詞が担うが、例外的に、<V1+ 会 hui> (V1ができる)、<V1+ 懂 dong> (~を理解する)等の状態を表す他動詞が担う場合もある。

3.3 中国語における補文関係の複合動詞

日本語において最も生産性が高く、卓越した複合動詞の類型は、補文関係の複合動詞であるが、中国語には補文関係の複合動詞が存在するのだろうか。中国語の複合動詞研究のなかで、初めて「補文関係の結果複合動詞」という分析を導入したのは、申(2007)である。申(2007:198)では、中国語の結果複合動詞を語彙概念構造と項の受け継ぎという基準で五分類し、その一類として補文関係の複合動詞を導入し、V2がV1によって表される先行事象全体に対して、完結のアスペクトを表す類を「補文関係の結果複合動詞」と呼んでいる。具体的には、以下のような例があげられ、(9)で示した影山(2013)の複合動詞の分類のうち、「アスペクト複合動詞」に相当するものである。各例文は、《汉语动词-结果补语搭配词典》を参考に適宜編集している。

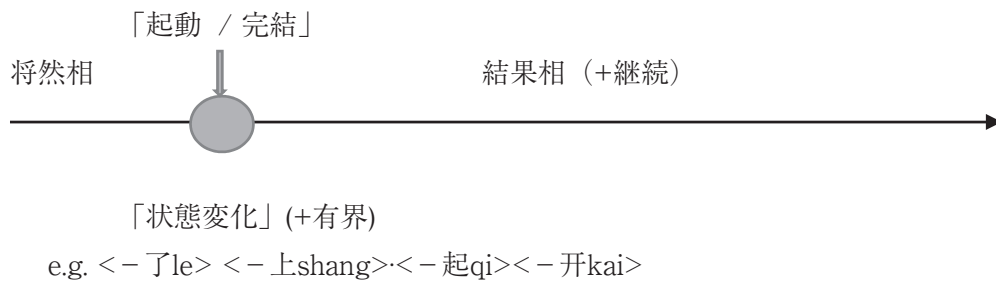
(12) 中国語の補文関係の結果複合動詞

- 1) <-完 wan> 「動作の終了：～終わる / 終える」 写完论文 讲完
- 2) <-到 dao> 「動作目的の達成」：看到(見る動作(look at)の結果、見える(see)), 找到(探して(look for)みつか
る(find)) 买到(買い物について入手する), 请到(招聘をお願いして、招聘可能になる)
- 3) <-好 hao> 「動作の完了+好ましい結果状態・結果物の創出：～上げる / 上がる」 写好论文(論文を書いて仕上
げた)、蛋糕烤好了(ケーキが焼けた)
- 4) <-上₁ shang> 「動作の結果+ {上方の場所 / 目的 / 基準} に到達する」 UP 概念
 - a) 「上方移動」：登上山顶(山頂に登る), 爬上八楼(8階まで登る)
 - b) 「目標到達」：买上房子(家を買って手に入れる), 住上新房子(新しい家に住めるようになる)
 - c) 「数量詞で表す基準に到達」：最近失眠, 每天只能睡上三, 四个小时。(最近は不眠で、毎日3,4時間しか眠れな
い)、只要中午睡上一刻钟, 下午工作就特别有精神。(お昼に15分眠れば、午後は仕事の効率がよい)
- 5) <-上₂ shang> 「平面に対する動作の結果+ある平面にモノが存在するようになる」 ON 概念
 - a) 「固着：～つける / つく」：贴上(貼り付ける), 写上姓名(氏名を書き込む / 書き入れる), 穿上衣服(衣服を
つける), 戴上{眼鏡 / 帽子 / 手套} ({眼鏡 / 帽子 / 手袋}を身に着ける)
 - b) 「二つのモノの{結合 / 接触}」 WITH 概念
关上門(ドアを閉める), 锁上(鍵をかける), 接触上了(連絡がついた / 接触ができた)
 - c) 「状態変化、起動+継続：～始める / ～になる」 起動の ON 概念
会议还没开大家就议论上了。(会議開始前に皆はすでに討論し始めた)、最近又忙上了。
(最近また忙しくなった)、爱上一个女演员(女優を好きになる),
- 6) <-光 guang> 「対象の消滅：～切る」 吃光(食べ切る), 喝光(飲み切る), 花光(お金を使い切る), 卖光(売り
切る / 売り切れる)
- 7) <-住 zhu> 「結果の固着：しっかりと～する」 风大, 帽子可要戴住了(風が強いので帽子をしっかりとかぶっ
ていなければならない)、记住(しっかりと覚える)
- 8) <-着 zhao> 「目標達成」 找着了(探してみつかった)、那本书借着了(あの本は、借り出すことができた)
- 9) 先行事象への評価：
 - <- 错 cuo: 誤る >
 - <- 多 duo: 多い >
 - <- 少 shao: 少ない >
 - <- 早 zao: 早い >
 - <- 晚 wan: 遅い >
 - <- 长 chang: 長い >
 - <- 短 duan: 短い >

さて、複合動詞の後項には、一見例外的に、起動相を表すものもある。例えば、<-上 shang><-起 qi><-开 kai> といった例がある。これらは、事象の「起動+継続」という意味を添えるアスペクト複合動詞であるが、中国語学では、結果補語として分類されている。しかし、こうした事象の「起動+継続」も、中国語においては、アスペクト的に、「有界性」をもつ状態変化として捉えられる。これは中国語の完結相を表すアスペクト接辞<-了 le>が、「存続場面のパーフェクト」(Perfect of Persistent Situation; Comrie1976:19-20, 望月 1997:63-64)として、将然相を表す際にも用いられることと関連する。即ち、中国語では、結果相でも、起動相でも、以下の(13)に示すような、「有界的」事象とその継続として、アスペクト接辞<-了 le>及びアスペクト複合動詞の後項<-上 shang><-起 qi><-开 kai>が用いられる。

これは、日本語でも、瞬間現在のスポーツ中継などの「～走った！」や、探しものがみつかった際の「あった！」と同様、状態変化を表す有界的形式である。

(13)



また、申 (2007:198) では、《汉语动词-结果补语搭配词典》より抽出した 1,866 例の結果複合動詞を以下のように分類し、補文関係の結果複合動詞が 35% を占めていることを示している。

(14) 結果複合動詞の分類とその生起数

1	目的語志向型	816	44%
2	主語志向型	322	17%
3	前項述語の項が具現化しない場合	73	4%
4	後項述語の項が具現化しない場合	0	0%
5	補文関係	655	35%
計		1,866 例	100%

影山 (2013:12) によれば、国立国語研究所のサイトで公開している日本語の「複合動詞レキシコン」(<http://vlexicon.ninjal.ac.jp/>) では、2,757 語の語彙的複合動詞が搭載されているが、主題関係複合動詞が 60%、アスペクト複合動詞が 31% であり、右側主要部の日本語の特質に反して、アスペクト複合動詞が予想以上に多く、全体の三分の一にのぼると述べている。(10) の中国語の補文関係の結果複合動詞は、日本語のアスペクト複合動詞に重なる部分が多く、やはり、全体の 35% と、全体の三分の一を占めており、日本語の語彙的アスペクト複合動詞との共通性がみられ、興味深い。

以下、影山 (2013) で論じられている日本語の語彙的アスペクト複合動詞と中国語のアスペクトを表す中国語の補文関係の複合動詞の対照を試みる。

3.4 中国語における主語補文型アスペクト複合動詞と日本語のアスペクト複合動詞

中国語における主語補文型結果複合動詞には、意味的に、「完結性」「評価」「程度の極限」の三種類がある。まず、V2 が先行事象を表す主語節に「完結性」を与える語彙的アスペクトの例を挙げる。

(15) V2 が主語節に「完結性」を与える場合:

a. 「～終わる」: <-完 wan>

例: 我写**完**(xie-wan) 论文了。(私は論文を書き終えた。)

b. 「～上げる / 上がる」: <-好 hao>

例: 我们的旅程早已**安排好**(anpai-hao) 了。(《现代汉语述补结构用法数据库》)³

(私たちの旅程は、すでに手配済みだ。)

第二に、V2 が主語節に対する評価形容詞となる場合の例を挙げる。

(16) 先行事象に対する評価⁴：

a. 「～誤る」：<- 错 cuo> (～誤る / ～間違う)、<- 对 dui> (～が正しい)：

例：有的问题他处理对 (chuli-dui) 了，有的处理错 (chuli-cuo) 了。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
(ある問題は、彼はきちんと処理したが、ある問題は、処理を誤った。)

b. 「～過ぎる」：<- 多 duo / 少 shao> (多過ぎる、少なすぎる)、<- 早 zao / 晚 wan> (早すぎる、遅すぎる)、<- 长 chang / 短 duan> (長すぎる、短すぎる)

例：我因为起晚 (qi-wan) 了，所以没赶上汽车。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
(私は起きるのが遅かったので、バスに乗り遅れた。)

c. 「～足りる」：<- 够 gou> (～足りる、～尽くす)

例：这个老人尝够 (chang-gou) 了没有文化的痛苦了。(《汉语动词 - 结果补语搭配词典》)
(この老人は教育を受けていない辛さを味わい尽くしている。)

第三に、V2 が主語節に対して、完結性以外に、「程度の極限」に達しているという意味を表す場合の例を挙げよう。

(17) 「程度の極限」：

a. 「～渡る」：<- 遍 bian>

例：这份广告传单在城里都传遍 (chuan-bian) 了。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
(この宣伝チラシは、街中に行き渡った。)

b. 「～尽くす」：<- 尽 jin>

例：他这一生受尽 (shou-jin) 了各种苦难。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
(彼は生涯でさまざまな苦難を味わい尽くした。)

上記の「完結性」「評価」「程度の極限」を表す中国語の複合動詞は、日本語のアスペクト複合動詞と共通する意味と構造をもっている。

3.5 アスペクト複合動詞の認知意味論的比較：「～上がる / 上げる」と中国語の <- 上 >

ここで、アスペクト複合動詞のうち、「～上がる / 上げる」と中国語の <- 上 shang> を取り上げて、認知意味論の視点から比較を試みる。両者は、いずれも具象概念としての「上方移動」を表す際に用いられるが、両者は、メタファーを通して抽象概念である UP 概念を生み出す。

まず、「～上がる / 上げる」は、UP 概念のひとつとして、「苦勞した結果、結果物が産出される」という意味をもつ。

(18)a. 論文を書き上げる。

b. ケーキが焼き上がった。

(18a,b) に対応する中国語では、「よい結果物が産出された」という意味の <- 好 hao> というアスペクト複合動詞が対応する。

(19) <- 好 hao> 「動作の完了 + 好ましい結果状態・結果物の創出：～上げる / 上がる」

a. 写好论文 (論文を書き上げた)、

b. 蛋糕烤好了 (ケーキが焼き上がった)

<- 好 hao> は、「～上がる / 上げる」と異なり、結果物の産出のみに焦点があたり、結果に至る過程には焦点があたっていない。

一方、中国語の<-上 shang>は、(12, 4)で示したようなUP概念と、(12,5)で示したON概念の両方の概念を表す。以下、UP概念用法を(20),ON概念用法を(21)として再録する。

(20) <-上₁ shang>「動作の結果+ {上方の場所/目的/基準} に到達する」UP概念

- a)「上方移動」: 登上山顶 (山頂に登る), 爬上八楼 (8階まで登る)
- b)「目標到達」: 买下房子 (家を買って手に入れる), 住上新房子 (新しい家に住めるようになる)
- c)「数量詞で表す基準に到達」: 最近失眠, 每天只能睡上三, 四个小时。(最近は不眠で、毎日3,4時間しか眠れない)、只要中午睡上一刻钟, 下午工作就特别有精神。(お昼に15分眠れば、午後は仕事の効率がよい)

UP概念を表す<-上₁ shang>は、目標達成を表し、目標は上に存在する概念として認知されている。この用法は、日本語のアスペクト複合動詞に対応するものがみつからず、中国語の第二言語習得においては、習得が特に困難である。

(21) <-上₂ shang>「平面に対する動作の結果+平面にモノが存在するようになる」ON概念

- a)「固着: ~つける/つく」: 贴上(貼り付ける), 写上姓名(氏名を書き込む/書き入れる), 穿上衣服(衣服をつける), 戴上{眼鏡/帽子/手套}({眼鏡/帽子/手袋}を身に着ける)
- b)「二つのモノの{結合/接触}」WITH概念
关上門(ドアを閉める), 锁上(鍵をかける), 接触上了(連絡がついた/接触ができた)
- c)「状態変化、起動+継続: ~し始める/~になる」起動のON概念
会议还没开大家就议论上了。(会議開始前に皆はずでに討論し始めた), 最近又忙上了。(最近また忙しくなった), 爱上一个女演员(女優を好きになる),

ON概念<-上₂ shang>は、「~つける」が対応する例を除き、日本語のアスペクト複合動詞には対応しない。ON概念<-上₂ shang>の存在は、中国語において、空間表現のON概念が日本語よりも発達していることを示唆する。例えば、日本語と中国語の類別詞は、日本語では助数詞、中国語では量詞と呼ばれるが、机、ベッドの類別詞が以下のように異なる。

(22)a. 日本語の助数詞「台」: 大きな人工物を表す名詞と共起する類別詞

机一台、ベッド一台、車一台

b. 中国語の量詞<-张 zhang>: 平面と捉えられる名詞と共起する類別詞

一张书桌(机一台)、一张床(ベッド一台)

c. 中国語の量詞<-辆 liang>: 車輪をもつ名詞と共起する類別詞

一辆车(車一台)

日本語においては、大きな人工物と認知されるものは、大きな塊として認知され、その内部構造(平面、車輪)に焦点をあてるということがない。中国語は、日本語に比べ、アスペクト複合動詞においても、類別詞においても、ON概念が強い。これは、4節で述べる、日本語の空間認知の非有界性とも通じる現象である。

3.6 中国語における目的語補文型結果複合動詞

中国語には、主語節を補文にとる「主語補文」型複合動詞は日本語と同様存在するが、目的語節を補文にとる「始動: V1することを {~かける/~だす/~始める}」「継続: V1することを {~まくる/~続ける}」「未遂: V1することを {~そこなう/~損じる/~そびれる/~しかねる/~遅れる/~忘れる}」「過剰行為: ~過ぎる」「再試行: ~直す」「相互行為: ~合う」といった「目的語補文」型複合動詞は存在しない。日本語と中国語におけるこの相違は、日本語がOV語順であるのに対して、中国語がVO語順であるという統語構造の反映である。即ち、中国語で

は、目的語節の動詞との複合が起こらない。

ここで、注意すべき点は、中国語において「主語補文」型複合動詞が存在するといっても、結果複合動詞であること、即ち、事象の「完結性」が保証されなければならない点にある。中国語は、日本語と同様、主語補文型の結果複合動詞が存在する一方で、目的語補文型複合動詞は存在しないように思われる。以下、日本語の目的語補文型複合動詞が中国語ではどのように表されるかについて考察してみよう。

例えば、始動、継続、未遂、再試行を表す目的語補文型複合動詞は、中国語においては、(23)に示すように、 $[_{VP} V2 + [_{IP} \dots V1 \dots]]$ という目的語節をとる動詞句か、 $[_{IP} 没能 [_{VP} \dots V1 \dots]]$ のように過去の不可能な事態を表す助動詞文に対応し、複合動詞には対応していない。

- (23)a. 「～始める」 $[_{VP} 开始 kaishi [_{IP} \dots V1 \dots]]$
b. 「～続ける」 $[_{VP} 继续 jixu [_{IP} \dots V1 \dots]]$
c. 「～損なう / 損ねる」 $[_{IP} 没能 meineng [_{IP} \dots V1 \dots]]$
d. 「～忘れる」 $[_{VP} 忘 wang [_{IP} \dots V1 \dots]]$
e. 「～直す」 $[_{VP} 重新 chongxin [_{IP} \dots V1 \dots]]$

ここで、一見目的語補文をとるようにみえる <定 ding> という複合動詞を考えたい。

- (24)a. 这本书我是用定 (yong-ding) 了, 你找别的书吧。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
(この本は、私が使うことに決めたから、他の本を探してね。)
b. 这个角色我演定 (yan-ding) 了, 谁也别跟我抢。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
(この役柄は、私が演じることに決めたわ、誰も私から奪うことはできない。)

<定 ding> は、日本語に翻訳すると、「～することを決めた」という意味になり、目的語補文をとるようにみえる。しかし、中国語の結果複合動詞は、基本的に非対格動詞又は形容詞しかとることができないという事実から考えると、<定 ding> は、自動詞 / 形容詞用法で、「～することになっている」という意味であり、主語補文をとる結果複合動詞と分析される。

では、中国語はなぜ目的語補文をとる複合動詞がないのだろうか？例えば、「書き忘れる」に対応する中国語として、なぜ <*忘写 wang-xie, [忘れる + 書く]> という複合動詞が不可能なのだろうか？その理由として、第一に、中国語においては、事象を時間順の語順で複合動詞を形成する「因果関係型」、或いは「先行-結果」語順型が、優先順位が最も高い複合動詞の型であることが挙げられる。

第二に、中国語では、動詞の後置成分として、目的語以外に、補語（結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、数量補語）が置かれるという統語的要因が挙げられるであろう。以下 (25) に示すように、目的語と補語が共起する場合、動詞の後ろに隣接する位置に来るのは補語であり、目的語は、<把 ba> という目的語を前置する前置詞を伴って動詞の前に移動し、動詞直後の位置を補語に譲るという「補語優先」現象がある。

- (25)a. 把 事情 办完。仕事をやり終える。(結果補語)
ba shiqing ban-wan.
b. 把他 叫进来。彼を呼んできなさい。(方向補語)
ba ta jiao-jinlai.
c. 把话 又 说了一遍。話をもう一度言う。(数量補語)
ba hua you shuo le yibian.

中国語においては、目的語と補語が共起する場合、<把 ba' 目的語 + 動詞 + 補語> という語順となり、目的語よりも補語のほうが、動詞の後置成分としての優先順位が高い。このように、中国語の統語構造において、目的語より

も補語が動詞の後置成分として優先される現象が、結果複合動詞の統語的卓越を示し、目的語との複合動詞化がおこらないという語形成にも反映されている。即ち、補語の統語的卓越性が、中国語では、目的語補文との複合動詞化が起らないという語形成法則に反映されているのである。

3.6 語順からみた日本語と中国語の複合動詞

日本語と中国語の複合動詞の語順には、並列型を除き、二種類の普遍原則がある。第一の原則は、「句構造における語順が、複合動詞の語順にそのまま反映される」という「句構造と語構造の語順一致原則」である。第二の原則は、「事象の起こった順に動詞を並べる」という、時間順と語順の間にみられる「表象性」(iconicity)に帰結される「時間順原則」(Tai 1985)である。日本語も中国語も、複合動詞の語順には、両方の普遍原則が働いているが、日本語においては、「句構造と語構造の語順一致原則」が最も卓越性をもつ一方で、中国語においては、「時間順原則」が最も卓越性をもつ。

中国語において「時間順原則」が「句構造と語構造の語順一致原則」よりも卓越性をもつという特徴を最も端的に示す例は、補文関係をもつ結果複合動詞の語順においてみられる。例えば、<吃膩 chi-ni(飽きる - 食べる : 食べ飽きる)>、<跳烦 tiao-fan(踊る - 飽きる : 踊り飽きる)>・<穿惯 chuan-guan(履く - 慣れる : 履き慣れる)> は、前項述語が表す事象が時間的に先に起こり、後項述語が表す事象が時間的に後に起こる結果事象である。

中国語の動詞句は、VO 型語順で主要部が左にあるから、動詞句の主要部と補文の語順が、複合動詞にも反映されるのであれば、複合動詞の語順は、<*膩吃 ni-chi(飽きる - 食べる : 食べることに飽きる)>、<*烦跳 tiao-fan(飽きる - 踊る : 踊ることに飽きる)>、<*慣穿 guan-chuan(慣れる - 履く : 履くことに慣れる)> のように、補文を表す部分が後に来るはずである。これは、例えば「返事を出し忘れた」は、中国語では、複合動詞で表現不可能なため、[_{vp} 忘 wang 了 le [IP 回信 huixin]] と、「動詞 + 目的語節」の語順で表すしかないことから予測できる。<吃膩> (食べ飽きる)、<穿惯> (履きなれる)、<跳烦> (踊り疲れる) では、中国語の動詞句の「動詞 + 目的語」語順が複合動詞の語順を決めているのではなく、「何度も食べて飽きた」「何度も履いて慣れた」「長時間踊って疲れた」という、時間順が複合動詞の語順を決めていることになる。日本語と中国語における句構造及び複合動詞の語順原則と原則の優先順位について対照すると、以下の表2のようにまとめられる。

表2 日本語と中国語における句構造、複合動詞の構造と語順原則

	日本語	中国語
1. 動詞句の構造	1. OV 語順 2. 動詞句 : 主要部右 動詞の後に結果述語は許されない。	1. VO 語順 2. 動詞句 : 主要部左 動詞の後に結果述語がおかれる。
2. 複合動詞の語順原則の優先順位	1. 「句構造と語構造の一致原則」 →補文関係の複合動詞が卓越 e.g. 「書き忘れる」 「早過ぎる」 2. 「時間順原則」 e.g. ・因果関係：溺れ死ぬ ・先行 - 結果関係：食べ残す 売れ残る	1. 「時間順原則」 結果複合動詞の卓越性 e.g. <吃膩>、<穿惯> →目的語補文型複合動詞は存在しない。 <*膩吃(食べることに飽きる)> <*慣穿(履くことに慣れる)> 2. 「句構造と語構造の一致原則」→ 目的語補文型はないが、主語補文型は存在する。 e.g. <-完>、<-上>、<-錯>、<-多>、<-少>、<-遍>

3.7 日本語の複合動詞と語順

以上、日本語の語彙的複合動詞及び統語的複合動詞の類型を中国語との対照を通して考察したが、日本語の統語構造がどのように複合動詞の語順に反映しているのかという観点から捉えなおしてみると、次の表3のようにまとめられる。表4は、日本語の複合動詞には、日本語の統語構造を反映した語順以外に、時間順原則を反映した「因果関係」及び「先行 - 結果」関係の複合動詞が存在することも示している。

表3 日本語の語彙的複合動詞の構造と語順

	V1	V2	統語関係	意味関係
統語的語順	1	V2の副詞成分	主動詞	副詞 - 動詞 1. 付帯状況・様態の複合動詞 持ち寄る、飲み歩く、探し回る、 聞き回る、持ち去る、滑り降りる、転げ落ちる 2. 手段の複合動詞 切り倒す、吸い取る、勝ち取る、 泣き落とす、言い負かす
	2	V2の主語節	主動詞	主語節 - 動詞 3. 主語補文関係 ～かける、～だす、～過ぎる、 ～得る
	3	V2の目的語節	主動詞	目的語節 - 動詞 4. 目的語補文関係 ～終える、～忘れる、～誤る、 ～直す、～慣れる
時間順語順	4	V2の原因事象	結果事象を表す	5. 因果関係 遊びくたびれる、泣きぬれる、溺れ死ぬ、焼け死ぬ、流れ着く
	5	V2の先行事象	結果事象を表す	6. 「先行 - 結果」関係 ～残る / 残す

3.8 日本語及び中国語学習者コーパスにみられる誤用

中国語においては、「原因 + 結果」構造が卓越しており、これは、結果複合動詞という語形成レベルにおいても、また生理・心理構文という構文レベルにおいても、「原因 + 結果」構造の卓越性が観察される。こうした中国語の特性は、中国語を母語とする日本語学習者の誤用においても反映される。望月 (2009) は「誤用パターン別上級日本語学習者作文コーパス」⁵において、中国語を母語とする日本語学習者の特性として、使役表現の過剰使用が観察されると述べ、次のような例を挙げている。

(26)a. たくさんの店が道路の両側の空いている場所を占めて、歩行者が歩けないほど混ませました (→混んでいました)。(CC808_1)

- b. 许多 店家 占据 了 道路 两旁 的 空地,
Xuduo dianjia zhanju le daolu liangpang de kongdi,
沢山の店 占める LE 道路 両側 DE 空いている場所
使得 道路 变得 很 拥挤。
shide daolu biande hen yongji.
～をひきおこす 道路 ～になる とても 混雑する

(26a)で、「*混ませる」という使役形を用いた誤用の要因として、以下のような母語干渉が推測される。即ち、中国語では、(21b)のように、「原因事象 + 結果事象」型構造で表すのが自然だが、日本語では、原因事象を主語にとって、「道を混ませる」という使役表現は非常に不自然で、「たくさんの店が道路の両側に並んでいるので、道は人が歩けないほど混んでいました」とするのが自然な文である。

一方、日本語母語話者による中国語学習者コーパス (東京外国語大学満月コーパス)⁶では、以下の (27a)のように、心理述語文に <让 rang> といった使役標識が脱落している誤用例がみられる。

(27)a. *(ϕ)高兴的在他的课(ϕ), 能学习(ϕ)很有意思的中文小说。(学習者による作文)

- b. 让我高兴的是在他的课上, 能学习到很有意思的中文小说。(添削後)
c. 嬉しかったのは、彼の授業で興味深い中国語の小説が勉強できたことである。

中国語では、心理述語文は原因を主語にとる使役構文をとるのに対して、日本語では、心理述語は経験者を主語に

とる形容詞・自動詞文であるという相違がある。こうした相違は中国語母語話者による日本語では「使役構文の過剰使用」が観察され、一方日本語母語話者による中国語では、「使役標識の脱落」という表裏をなす相関現象が観察される。

4. 英語・中国語学習者コーパスの誤用からみた日本語の空間認知と個体化

本節では、日本語母語話者英語誤用コーパスにみられる「in」の過剰使用」や日本語母語話者中国語誤用コーパスにみられる「一个 yige」の欠如」に焦点をあて、日本語の空間認知が、融合型空間認知であり、「無界」的 (unbounded) であることを論じる。

4.1 日本語・英語・中国語学習者誤用コーパス構築と中間言語研究

東京外国語大学では、以下三種類の日本語・英語・中国語学習者コーパス及び誤用コーパスの構築・誤用分析を行っている。まず、日本語学習者コーパスは、グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」(2007 年度～2011 年度) において構築され、以下のサイトで公開している。<http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja/index.php?menulang=ja>

本コーパスでは、台湾銘傳大学(中国語母語話者)、英国リーズ大学(英語母語話者又はヨーロッパ言語母語話者)、国立キエフ言語大学(ロシア語又はウクライナ語母語話者)における日本語学習者作文コーパス(作文数 373、文字数 161,533 字、執筆者総数 146 名)を、学習者から著作権に関わる承諾書を得たうえで、学習者情報とともに公開している。さらに、この日本語学習者作文コーパスから文法・語彙上の誤用項目を抽出し、日本語の学習者・教育研究者のための「日本語誤用オンライン辞典」を作成し、以下のサイトで公開している。

<http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja/index.php?menulang=ja>

次に、英語学習者コーパスは、2011 年度より収集され、東京外国語大学英語専攻の学生による英語上級学習者作文コーパス「朝日コーパス」(Sunrise Corpus TUFU, 2014 年 2 月現在、120 名の学習者が執筆した 1,189 作文、TOEIC 平均 800 点程度)に、英語母語話者が添削し、誤用項目が検索可能な「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」試用版を東京外国語大学国際日本研究センター HP にて公開している。

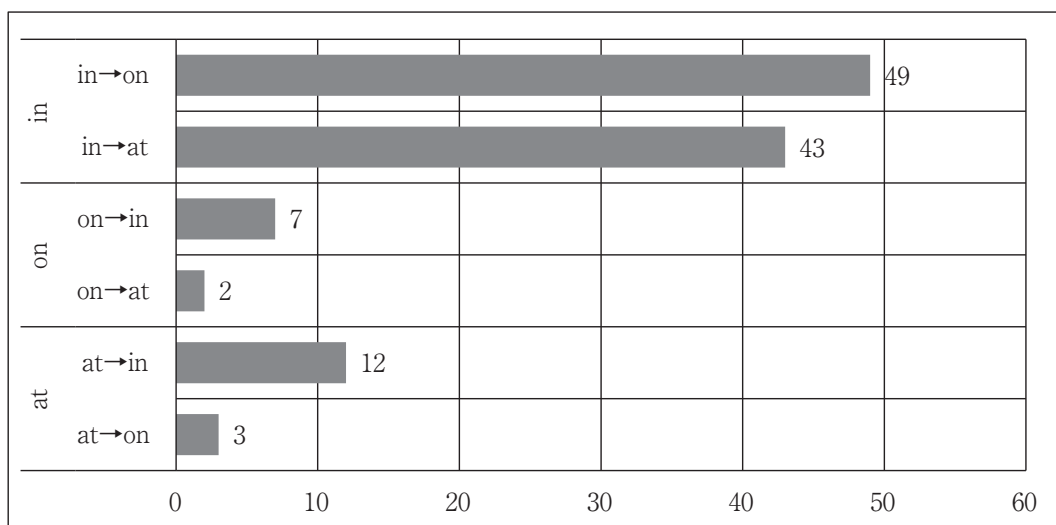
<http://sano.tufs.ac.jp/lcshare/htdocs/index.php>

第三に、中国語学習者コーパスは、2013 年度より、東京外国語大学中国語専攻 3・4 年生の中国語作文に基づく上級中国語学習者コーパス「満月コーパス」(Full Moon Corpus TUFU, 2014 年 2 月現在、81 名の学習者による 248 作文、92,000 字程度、平均 HSK6 級程度)を構築している。以下、この 3 種類の異なる母語の学習者コーパスにみられる誤用を通して、英語・中国語・日本語の空間表現の誤用の要因について分析する。

4.2 英語学習者誤用コーパスにみられる英語の空間表現の誤用：「IN の過剰使用」

「朝日コーパス」において、卓越した誤用類型の一つは、「前置詞 in」の過剰使用」である。望月・狩野(2011)では、朝日コーパスにおいて抽出された空間・時間を表す前置詞 in/on/at の誤用は 116 例あり、その内訳は、(28) のように示されることを示した。

(28) 空間・時間を表す前置詞 in/on/at の誤用数



(28) が示すように、in/on/at の誤用 116 例のうち、in の誤用が 79%(92 例) を占め、最も顕著である。なぜ「in」の過剰使用」が日本語母語学習者に顕著なのだろうか。まず、英語の AT, ON, IN のイメージスキーマを (29) として図示しよう。

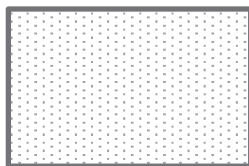
(29) AT / ON/ IN のイメージスキーマ

a. AT



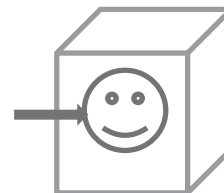
「点」→「ひとまとまり性」

b. ON



「平面」

c. IN



「立体」「内部構造」「内部移動」

以下、日本語母語話者による「in」の過剰使用」の要因が、日本語では無界的空間認知が卓越し、ON/AT のイメージスキーマが顕著ではないことに起因することを論じる。

4.3. 英語・日本語・中国語の空間認知：IN と ON

日本語母語話者による in の誤用では、「場所表現には in が用いられる」という「過度般化」が日本語母語英語学習者には存在する。以下誤用例を挙げよう。各誤用文の後に付された()内の番号は、執筆年度、学習者 ID を示している。下線は筆者によるもので、(→ X)は、X が正しい表現であることを示している。

(30)The safety in (→on) Japanese trains is also one of the reasons why people feel relaxed enough to sleep. (2012.29)

日本の電車の中の治安のよさも、安心した眠りができる理由でもあります。

公共交通機関であるバス、電車、船、飛行機等の空間は、英語では ON と認知され、on が用いられる。それは、共通理解として「決められた路線図上を移動する」という認知とも関連している。その証拠に、お客の指示に従って移動するタクシーは、on ではなく in a taxi と表現する。一方、日本語では、こうした「公共交通手段⇒路線図⇒ON」という認知は存在せず⁷、「～内」(車内、機内、学内)、「～の中」(電車の中、飛行機の中、学校の中)と

いった表現が用いられ、平面的認知の表現は用いられない。こうした日本語の特性が、「inの過剰使用」を引き起こしていると予測される。中国語においても、場所詞の後につく<-上-shang>が、ONの概念とみなされる。

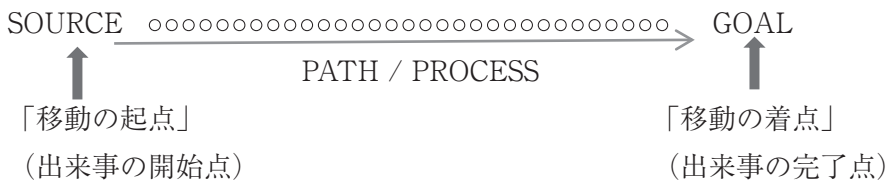
- (31)a. 车上睡觉 電車の中で眠る。
 b. 飞机上看电影 飛行機の中で映画を観る。

日本語母語中国語学習者にとって、(31)のような「名詞を場所化する<-上>」の習得がむずかしく、「満月コーパス」においても、脱落している誤用が多いが、英語のON概念の習得がむずかしいのと同様である。

また、中国語では、<-上>は「事象名詞」の後につくこともある。例えば、<课堂上(授業で)、宴会上(宴会で)、学会上(学会で)>のような例があるが、日本語では、格助詞の「で」としか訳せず、空間表現はつかない。望月・狩野(2012)は、英語のonが、「移動に関わる名詞」(e.g. route/course/train/airplane/trip)や「通信伝達に関わる名詞」(e.g. phone/radio/TV/internet)と共起するのは、「経路」(PATH)というイメージスキーマと関連している可能性を示唆し、以下のようなイメージスキーマとONの概念を提示した。

(32)「経路」(PATH)のイメージスキーマとON

「移動の経路」 ON route/course/train/airplane/trip
 「事象の過程」 课堂上/宴会上/学会上



中国語において、事象名詞に<-上>がつく場合は、(32)のPROCESS「出来事の過程」が想定され、過程の上を、○が漸増的に移動する、即ち「時間の推移」というアスペクトのイメージと関連しているともいえる。日本語では、「授業中」という表現にあたる。

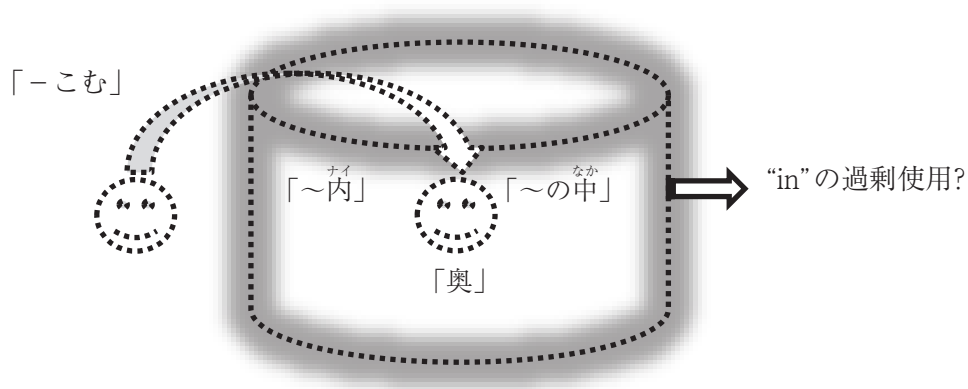
このように、英語・中国語は、ONの空間表現が卓越している⁸のに対し、日本語では、(57)で示したような「点」「平面」「立体」という区別が明確な空間認識が存在せず、(61)に示すような、空間や実体の境界が曖昧な「ウチ」という認識しかないように思われる。

例えば、日本語の「〜こむ」は、生産性が高い複合動詞であるが、「床を磨きこむ」「身体と精神を鍛えこむ」等の用法は、抽象的な「精神性」がある空間の内部へ移動するという「抽象的内部移動」を示している。こうした抽象的内部移動の「〜こむ」は、複合動詞が存在する中国語や韓国語でも、複合動詞にすることができず、「一生懸命|磨く/鍛える|」と翻訳されるという。

また、日本語の「奥」という空間概念も、抽象的な空間概念である。「奥」は心理的に最も遠い場を指し、英語では、interior (内部), back (後部), bottom (底), depth (深い部分), secret (秘密の/神秘的な)等に対応し、英語からみれば多義性をもつが、日本語の語彙としては、「奥」が表す空間は、「遠く深いところに存在する神秘的な、無限の広がりをもつ場」で、その無界性がINというイメージスキーマと結びつくのではないだろうか。

日本語における「〜内」^{ナイ}、「〜の中」^{なか}「〜こむ」「奥」等、「境界が曖昧な内部空間」と「内部空間に融合しているモノ」というイメージスキーマは、(33)のように表される。

(33) 日本語における「^{ナイ}～内」、^{なか}「～の中」「奥」「～こむ」の「無界的」イメージスキーマ



4.4. 概念化された場の「点」としての認知：AT と IN

英語では、「概念化された場」(e.g. school, shop, station, hotel, post office) は、ある「一定の機能をもつ場」として「ひとまとまり性」をもち、個体化された点としての AT の概念と結びつく。しかし、日本語にはこのような認知手段はなく、(33) で示したような曖昧な空間として認知されるため、やはり「in の過剰使用」がみられる。以下の誤用例は、「学校」「大学」という概念化され、個体化された場に in を用いた誤用例である。

(34)a. There are a lot of food and drinks stalls in (→ at) the university run by students. (2011.63)

大学には、学生たちによって運営される飲食の屋台がたくさんある。

b. In (→ at) the school, I studied English diligently in order to enter TUFUS, Tokyo University of Foreign Studies. (2012.15)

学校では、東京外国語大学に合格するために、英語をがんばって勉強した。

(34a,b) の university/school は、「具体的な場」としてではなく、「大学」「学校」という機能面に視点をおいた「概念化され個体化された場」として、AT と認識され、内部構造認知の IN とは共起しない。しかし、日本語母語英語学習者は、「概念化された場」を「ひとまとまり」として認知する AT の概念でとらえることがむずかしい。その一つの要因に、日本語の場所表現には、「場」の認知の相違によって異なる格助詞を用いることがないことが挙げられる。「に」「で」の使い分けは、空間認知ではなく、統語的な要因に基づいている。

(35)a. 「場所 + に」:

語彙的に「存在」の意味を内包する述語「ある、いる、住む、置く、留まる、泊まる」等と共起し、述語の「必須項」(obligatory argument) となる。中国語では、「動詞 + < 在 zai > 存在場所」構文に相当し、存在場所は動詞の後置成分で補語。

b. 「場所 + で」:

命題の「場面設定」(scene-setting) として、文全体の修飾機能をもつ場合に用いられ、述語にとっては「随意項」(optional argument) であり、基本的にどのような文にもつくことができる。中国語では、「< 在 > 場所 + 述語」に相当し、副詞句。

つまり、空間を表す「に」と「で」の使い分けは、述語の語彙的特性によって決められているため、日本語母語話者は、英語・中国語にみられる空間認知、即ち英語における IN/ON/AT の使い分け、中国語の名詞を場所化する < 上 > の習得が困難となる。一方で、英語・中国語を母語とする日本語学習者にとっては、「に」と「で」の使い分けが学習困難点となる。一般的には、初級ほど、また中国語母語話者ほど、「に」の過剰使用が観察される。「中国語の介詞 < 在 > = 日本語の“に”」という過度般化によるものである。以下、「日本語誤用オンライン辞典」から誤用

例を挙げよう。

- (36)a. ドーピングの問題はどれも複雑なので具体的に答えられないだろう。上に(→で)論じられたことからもっと議論することはあると思われる。(英語母語, Ld_044_2009)
- b. 大学院で私の人生の中に(→で)初めての「零」をもらいました。(中国語母語, Mc_005_2010)

4.5. 中国語誤用における「数量詞の欠如」: 日本語における個体化認知の欠如

池上(1981), 池上(2007)では、英語が「個体化指向」「有界的」(bounded)な事態把握であるのに対して、日本語は、個体を全体に融合させ、明確な輪郭をもたない「連続体指向」「無界」(unbounded)的事態把握であることが述べられている。この主張を支持する現象として、「満月コーパス」にみられる「“一个 yige”の欠如」による誤用が挙げられる。「“一个 yige”とは、「一個」「ひとつの」の意味をもち、英語の不定冠詞“a”に類似する数量詞であるが⁹、“a”とは異なり、常に義務的に名詞につくわけではなく、沈家煊(1995)によれば、「有界的」(bounded)な事態把握の場合にのみにつく。以下、「“一个”」に代表される数量詞がつく例文を挙げる。

- (37)a. 虽然是一个物资不是很丰裕的时代, 但是胡老师以及他家人对我的热情款待的回忆, 始终就像一个宝藏一样。
物質的に豊かとはいえない時代でしたが、胡先生と先生のご家族が私をご親切にもてなしてくださった思い出は、宝物のように今も胸に刻まれています。
- b. 日本是一个高度管理的社会, 有人说整个日本如同一个大公司。(人民日报 1995年6月份, 北京大学 CCL コーパスによる)
日本は高度な管理社会で、日本全体が大企業のようであるともいわれる。

下線部の「時代」「宝物」「社会」「大企業」に相当する中国語には、いずれも“一个”という数量詞がつくものに対し、日本語ではこうした数量詞がつかない。「満月コーパス」においても、(38)の誤用例が示すように数量詞の脱落が顕著である。

- (38)a. 那时发生了*(一件)不幸的事。
その時、不幸な出来事がおこった。
- b. 东大和有*(一个)很大的公园, 东大和南公园, 附近也有*(一条)小河。
東大和にはとても大きな公園がある、即ち東大和南公園である。そして、その付近には小川もある。

一方、英語母語話者による中国語学習者コーパスでは、「“一个”=英語の不定冠詞“a”」という過度般化により、「無界」(unbounded)的な未完了の事態においても“一个”をつけるという過剰使用がみられる。以下は、台湾師範大学¹⁰より提供された英語母語話者コーパス中にみられた“一个”の過剰使用例であるが、いずれも、予定・可能・蓋然性・否定等の「無界」(unbounded)的な未完了の事態に“一个”をつけた誤用例である。

- (39)a. 我計畫我們去電影院看(*一部)電影。
私は、私たちが映画館に行って、一作の映画を見る計画をしている。
- b. 我記得你說過你喜歡丟飛盤, 所以我會把(*一張)飛盤帶來。
君はフリスビーが好きだときいたから、私はフリスビーを一つ持ってくるよ。
- c. 我在台北沒有發生(*一個)大問題, ……
私は台北では、まだ大きな一つの問題にあったことがない。
- d. 今天他不但忘了帶手機, 也忘了帶(*一瓶)水。
今日彼は携帯電話を忘れたばかりではなく、水一本持ってくるのも忘れた。

中国語には、文法範疇としての「数」はないが、類別詞が非常に発達し、数量詞が「有界的」(bounded) な事態把握の場合につく。この点で、中国語は、(40) のように、英語ほど「個体化指向」ではないにしても、日本語よりは、「個体化指向」が強いといえる。

(40)

	① 文法範疇「数」	② 類別詞	③ 個体化
英語	+	-	+++
中国語	-	+++	++
日本語	-	+	-

5. 結び

本論では、日本語の語彙の特質を、複合動詞、空間表現、数量詞について、中国語・英語との比較から論じた。論考を通して浮き彫りになるのは、日本語が、英語についてはいうまでもなく、中国語よりも「連続体指向」「無界」的事態把握の特質をもつという事実である。

まず、複合動詞においては、日本語と中国語の共通点は、「統語構造で動詞と最も緊密な関係にある統語成分が複合される」という点である。また、アスペクト複合動詞においても、両言語は非常に豊富な体系をもつ。

一方、日中語の相違点として、日本語で卓越した複合動詞は、「目的語節+動詞」型補文型複合動詞であるのに対して、中国語で卓越した複合動詞は、「動詞+結果補語」という統語構造が反映された結果複合動詞である、という相違がある。このため、中国語では、完結性をもたない始動相「～始める」「～かける」「～出す」、継続相「～続ける」、未遂の「～忘れる」「～そこなう」等の「無界的」事象把握は複合動詞化されない。中国語は、複合動詞において「完結性」という「有界的」事態把握が非常に卓越しているのに対し、日本語は始動相、継続相、未遂といった「無界的」事象についても複合動詞を形成できるという大きな相違がある。

第二に、英語の空間を表す前置詞“in”“on”“at”のうち、日本語母語英語学習者コーパスにおいて、“in”の過剰使用が顕著であるという事実をみた。その誤用原因として、日本語における「～内」^{□□}、「～の中」^{□□}、「～こむ」^{□□}「奥」等、「内部空間に融合しているモノ」「境界が曖昧な内部空間」といった空間認知が関与している可能性を論じた。ここにも、日本語母語者において、「無界的」空間認知が卓越し、「無界的」空間に“in”を用いる可能性がみえる。

第三に、日本語母語話者学習者コーパスにおける「中国語の数量詞“一个”の欠如」、英語母語話者学習者コーパスにおける「中国語の数量詞“一个”の過剰使用」が卓越しているという対比は、日本語が「無界」的事態把握の特質をもつため、日本語母語話者にとって、「有界的」事象把握の“一个”の習得が困難であることが示唆される。

日英語の表現類型の相違については、多くの論考があるが、中国語も加えた比較をしてみると、中国語は、さまざまな点で、日本語対英語の両極の中間に位置する言語のように思われる。中国語は、自他対応の語形成において自動詞が基本、脱使役化、複合動詞という点で、日本語と類似するのに対し、VO語順、使役構文の卓越性、数量詞による名詞の個体化という点で、英語と類似する。日本語を英語のみならず、中国語を加えた比較を通して分析することは、こうした意味で非常に興味深い。

最後に、本稿では、母語が異なる英語・中国語・日本語学習者コーパスにみられる誤用類型の相違についても論じた。学習者コーパスの研究は、学習者の母語の特質を検証可能な貴重なデータであり、学習者の母語にねざした効率的な言語教育研究にも大きく貢献する。学習者コーパス研究が、新しい学問領域として大きく研究が進むことを期待して筆をおきたい。

使用コーパス

1. 《汉语动词-结果补语搭配词典》1987. 王砚农・焦群・庞颀编. 北京语言学院出版社.
2. 北京大学中国語学研究中心 CCL コーパス.

3. 《现代汉语述补结构用法数据库》2009. 早稲田大学砂岡和子研究室・北京大学中文系詹卫东研究室・東京外国語大学望月圭子研究室共同制作。中国語の複合動詞オンライン辞典。
<http://ccl.pku.edu.cn/vc/>
4. 東京外国語大学 GCOE 「日本語学習者言語コーパス」
<http://cblle.tufs.ac.jp/lc/ja/index.php?menulang=ja>
5. 東京外国語大学 GCOE 「日本語誤用オンライン辞書」
<http://cblle.tufs.ac.jp/lc/ja/index.php?menulang=ja>
6. 東京外国語大学国際日本研究センター 「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」
<http://sano.tufs.ac.jp/lcshare/htdocs/?lang=japanese>
7. 東京外国語大学・国立台湾師範大学・上海外国語大学共同制作
 ‘Learners’ Error Corpora of English Searching Platform’
http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_eng/
8. 東京外国語大学・国立台湾師範大学共同制作
 ‘Learners’ Error Corpora of Chinese Searching Platform’
http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ch/

参考文献

- アンドレア・タイラー, ビビアン・エバンズ著, 国広哲弥監訳, 木村哲也翻訳. 2005. 『英語前置詞の意味論』 研究社.
- 青木博史 (2003) 「複合動詞の歴史的变化」 影山太郎編. 2013. 『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』 ひつじ書房.
- Cheng, Lisa Lai-Shen and C.T. James Huang. 1994. “On the Argument Structure of Resultative Compounds”, *In Honor of William S-Y. Wang: Interdisciplinary Studies on Language and Language Change*. 187-221. Pyramid Press, Taipei.
- Huang, James C.T. 2006. “Resultative and Unaccusatives: a Parametric View” 『中国語学』 234号, 1-43. 日本中国語学会.
- 池上嘉彦. 1981. 『「する」と「なる」の言語学－言語と文化のタイポロジーへの試論』 大修館書店.
- 池上嘉彦. 2006. 『英語の感覚・日本語の感覚』 NHK ブックス. NHK 出版.
- 池上嘉彦. 2007. 『日本語と日本語論』 筑摩書房.
- 姫野昌子. 1999. 『複合動詞の構造と意味構造』 ひつじ書房.
- 石井正彦. 2007. 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』 ひつじ書房.
- 影山太郎. 1996. 『動詞意味論－言語と認知の接点』 くろしお出版.
- 影山太郎. 2004. 『ケジメのない日本語』 岩波書店.
- 影山太郎. 2005. 「辞書の知識と語用論的知識－語彙概念構造とクオリア構造の融合にむけて」 影山太郎編 『レキシコンフォーラム No.1』 : 65-101. ひつじ書房.
- 影山太郎編. 2013. 『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』 ひつじ書房.
- Levin, Beth. 1993. *English Verb Classes and Alternations*. University of Chicago Press.
- Levin, Beth, and Malka Rapaport Hovav. 1995. *Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface*. Cambridge: MIT Press.
- 梁银峰. 2007. <论汉语动补复合词的词汇化过程> (『中国語動詞 - 補語複合語の語彙化過程』) 上海: 学林出版社.
- 陆俭明. 1990. <“VA了”述补结构语义分析> <汉语学习> 1990年第1期.
- 陆俭明. 2001. <“VA了”述补结构语义分析补义> <汉语学习>. 2001年第6期.
- 马真・陆俭明. 1997. <形容词作结果补语情况考察>. <汉语学习>. 1997年1,4,6期.
- 望月圭子. 1990a. 「日・中両語の結果を表す複合動詞」 『東京外国語大学論集』 第40号、13-27.
- 望月圭子. 1990b. 「動補動詞の形成」 『中国語学』 237 : 128-137. 日本中国語学会.

- 望月圭子. 1993. 「場所に関わる『に』と『で』 - 中国語との対照から -」『松田徳一郎教授還暦記念論文集』 370-381. 研究社.
- 望月圭子. 1997. 「中国語のパーフェクト相」『東京外国語大学論集 55』 55-71. 東京外国語大学.
- 望月圭子. 2003. 「日本語と中国語における使役起動交替」『松田徳一郎教授追悼論文集』 236-260. 研究社出版.
- 望月圭子. 2004. 『動詞の使動與起動交替: 漢日語的對照研究』 (Causative and Inchoative Alternation: Comparative Studies on Verbs in Chinese and Japanese) 台灣國立清華大學語言學研究所博士論文.
- Mochizuki, Keiko. 2007. "Patient-Orientedness in Resultative Compound Verbs in Chinese." Yuji KAWAGUCHI (et al.), *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. 267-280. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 望月圭子・キャロライン狩野. 2012. 「英語・日本語における空間・時間に関わる格標識: 日本語母語話者による英作文学習者コーパスにみられる誤用類型」『東京外国語大学論集』 第 85 号, 219-236.
- 望月八十吉. 1982. 「日本語から中国語を眺める - その 2 -」『日本語と中国語の対照研究』 第 8 号 :1-18. 日本語と中国語対照研究会編.
- 望月八十吉. 1992. 「日・中両国語における能格的表現」, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』 49-67. くろしお出版.
- 望月八十吉. 1994. 『現代中国語の諸問題』 好文出版.
- 太田辰夫. 1958. 『中国語歴史文法』 江南書院.
- 斎藤倫明. 2004. 『語彙論的語構成論』 ひつじ書房.
- 沈家煊. 1995. <“有界”与“无界”>《中国语文》第 5 期. 367-380.
- 申亜敏. 2005. 「中国語の自他と結果表現類型」影山太郎編『レキシコンフォーラム No.1』 229-237. ひつじ書房.
- 申亜敏. 2007. 「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」影山太郎編『レキシコンフォーラム No.3』 pp.195-227. ひつじ書房.
- 申亜敏. 2009. 『中国語結果複合動詞の意味と構造—日本語の複合動詞・英語の結果構文との対照及び類型的視点から—』 東京外国語大学博士論文.
- 申亜敏・望月圭子. 2009. 「中国語の結果複合動詞—日本語の結果複合動詞・英語結果構文との比較から」小野尚之編『結果構文のタイポロジー』 407-450. ひつじ書房.
- Tai, James H-Y. 1984. 'Verbs and Times in Chinese: Vendler's Four Categories' *Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society.
- Tai, James H-Y. 1985. "Temporal sequence and Chinese word order" In John Haiman (ed.), *Iconicity in Syntax*: 49-72, Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Tai, James H-Y. 2003. 「認知相對論: 漢語結果複合動詞的啟示」『語言暨語言學』 第四卷, 第二期 :301-316, 中央研究院.
- Talmy Leonard. 2000. "A Typology of Event Integration" *Toward a Cognitive Semantics, vol. II: typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, MA: The MIT Press. 213-288.
- 田中茂範・松本曜. 1997. 『空間と移動の表現』 研究社.
- 湯 廷池. 1989. 「詞法與句法的相關性: 漢, 英, 日三種語言複合動詞的對比分析」『漢語詞法句法續集』 147-211. 臺灣學生書局.
- 湯廷池. 1992. 「漢語述補式複合動詞的結構、功能與起源」『漢語詞法句法四集』 95-164. 臺灣學生書局.
- 湯廷池. 2000. 「漢語複合動詞的使動與起動交替」『第七屆中國境內語言暨語言學國際討論論文集』 台灣國立中正大學語學研究所.
- 湯廷池. 2002a. 「漢語複合動詞的使動與起動交替」, 『語言暨語言學』 3 卷 3 期: 615-644.
- 湯廷池. 2002b. 「漢語派生動詞‘-化’的概念結構與語法功能」『中國語文研究』 第 13 期. 9-25. 香港中文大學・北京語言文化大學.
- 湯廷池. 2004. 「漢語動後成分」, 『華語文教學研究』 第一卷第一期, 137-158.
- 寺村秀夫. 1984. 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版.

- 山本清隆 1984. 「複合動詞の核支配」『都大論究』 21, 32-49.
- 王軼群 .2009. 『空間表現の日中対照研究』 くろしお出版 .
- Washio, Ryuichi .1997. “Resultatives, compositionality and language variation”. *Journal of East Asian Linguistics* 6:1-49.
- 徐 丹 .2001. < 从动补结构的形成看语义对句法结构的影响 > 《语言研究》第 2 期 : 5-12. 山西省社会科学院 .
- 吉澤典男 1952. 「複合動詞について」『日本文学論究』 10:pp.32-32-42.
- 由本 陽子 . 2001. 「動詞から動詞を形成する語形成における下位範疇化素性の受け継ぎについて」『言語文化研究』第 27 号 : 453-473. 大阪大学言語文化部・言語文化研究科.
- 由本陽子 .2005. 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』 ひつじ書房 .
- 詹卫东 . 2011.< 复合事件的语义结构与现代汉语述结式的成立条件分析 > 《词 - 语界面 - 前沿研究及应用》 北京大学出版社 .

注

- 1 東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」プロジェクトおよび科学研究費 基盤研究 (B)「英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発 (2013 年度 -2015 年度, 望月圭子代表)」の援助のもとに構築された東京外国語大学で授業時に執筆された英作文誤用コーパスであり、本研究は、上記二研究プロジェクトの研究成果の一部である。
- 2 中国語においては、形容詞、非対格動詞の区別が明確ではない。例えば、< 累 lei> (疲れる) は、形容詞につく程度副詞 < 很 hen> (とても) がついて < 很累 > (とても疲れている) といえるので形容詞として機能するのに対し、< 我累了 > (私は疲れた) は、非対格動詞とみなせる。
- 3 北京大学中文系・早稲田大学砂岡和子研究室・望月圭子研究室で構築しているオンライン中国語補語辞典 (<http://ccl.pku.edu.cn/vc/>)
- 4 詹 (2011) は、この評価型複合動詞を“主観評価型”結果複合動詞と呼んでいる。また、陸 (1990, 2001) 及び馬・陸 (1997) は、「～過ぎる」に当たる中国語の評価型複合動詞を、‘偏离义’ (逸脱の意味) を持つ複合動詞として、< 买贵 mai-gui> (買った結果、値段が高過ぎた)、< 吃多 chi-duo> (食べ過ぎる)、< 来早 lai-zao> (来るのが早すぎる)、< 起晚 qi-wan> (起きるのが遅すぎる)、< 挖浅 wa-qian> (掘った穴が浅すぎる) 等の例を挙げている。
- 5 2006 年度から 2008 年度にわたり東京外国語大学外国語学部日本課程留学生 1,2 年生が授業時に執筆した作文を添削し、誤用パターン別に分類した資料である。平成 19 年度～22 年度科学研究費助成基盤研究 A・「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスに基づく言語運用の研究と教育への応用」(研究代表者川口裕司、科研費 No.19202015) の助成を受けている。
- 6 科学研究費 基盤研究 (B)「英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発 (2013 年度 -2015 年度, 望月圭子代表)」の助成により、東京外国語大学中国語専攻の授業時に執筆された中国語学習者コーパスに基づく誤用コーパス。
- 7 但し、類別詞である助数詞「-本」が、決められた路線を走る機能として捉えられる場合、類似の認知が起こる。

- a. 寝坊をして、電車一本のがしてしまった。
- b. このあたりは混むから、電車一両、前の車両に乗ろう。

の「電車一本」では、運行されている交通機関としての「電車」への認知として、やはり「路線図」がイメージされ、「細長いもの」から「移動の経路」へと意味拡張した「-本」が用いられる。一方、b. の「電車一両」では、物体としての電車が、両輪をもつという認知から「両」が用いられる。

また、助数詞「-本」は、通信関係にも用いられ、「情報の移動経路」としての認知スキーマが関係している。

- c. 電話を一本かけた。
 - d. 手紙を一本書いた。
- 8 中国語の類別詞「量詞」< 张 zhang> も ON 概念で、机・ベッドは、機能面が ON として把握されるため < 张 > と共起するが、日本語では、机・ベッドは「大きなもの」という BIG 認知で、数量詞「-台」と共起し、「量詞」< 张 > の習得に時間がかかる。
 - 9 中国語の類別詞は非常に豊富な体系をもつが、ここでは、“一个 yige” を数量詞の代表として記載する。
 - 10 臺灣師範大學國語中心で中国語を学ぶ英語母語話者が執筆した中国語作文 600 作文で、CEFR で A2,B1,B2 レベルの台湾教育部中国語検定試験 TOCFL の試行版による。提供して下さった陳浩然教授、張莉萍教授に感謝申し上げます。

Unboundedness in Japanese Lexicon:

Comparative Analysis of Compound Verbs in Chinese and Spatial Lexicon in English

Keiko Mochizuki

(Tokyo University of Foreign Studies)

YaMing Shen

(Waseda University)

Keyword: Unboundedness, VV compound verbs, Spatial Lexicon, Comparative Analysis with English and Chinese, Individuality, Learners' Corpora

This paper focuses on “Unboundedness” in Japanese lexicon by comparing Japanese VV compound verbs with Chinese VV compound verbs and examining misuses of spatial prepositions “in/on/at” in “TUFs Sunrise Learners' Corpus of English”. We propose two pieces of evidence for unboundedness in Japanese in terms of temporal and spatial lexicon.

First, in terms of temporal viewpoint, we discuss that Japanese VV compound verbs have no aspectual constraint while Chinese VV compound verbs have strong constraint that V2 should be telic. This claim can explain why Japanese learners of Chinese make frequent errors in lack of V2 in Chinese compound verbs and Chinese learners of Japanese find difficulty in atelic inchoative/durative V2 in Japanese like “-kakeru” (start to ˆ), “-tsuzukeru” (continue to ˆ). We exemplify these phenomena by offering misused examples in our TUFs learners' corpora of Japanese/Chinese.

Second, in terms of spatial viewpoint, we discuss that spatial unboundedness is prominent in Japanese lexicon compared with English and Chinese. This claim can explain why Japanese learners of English and Chinese find difficulty in “in/of”, “in/on/at” in English and “Noun+ 上 shang(on)” in Chinese. We exemplify these phenomena by offering misused examples in our TUFs Japanese learners' corpora of English/Chinese.